

中間考査後（6月）の委員会において、本取組の趣旨と資料1の行事ノートの記入について説明した。生徒は、オープンスクール委員として学校説明会に「どのように取り組みたいか」と「個人の目標」を記入した。夏季休業前（7月）に、個人の目標を達成するために「どのようにがんばっているか」や「本番にどのように行動したいか」を記入した。また学校説明会后に、「どのように考えて行動したか」「学んだこと・感じたこと」を振り返り、「次に生かしていきたいこと」と併せて記入した。

ウ 成果

資料2～資料4は当時の本校2年生のオープンスクール委員が書いた行事ノートである。資料2の「行事ノート（準備シート）」には、「1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を感じさせるために、自分と同じ経験をさせることで、豊丘の魅力を知ってもらう。そのために、考えて動けるようにしていきたい」と記述されており、自分が中学生のときに参加した学校説明会でよかったと感じたことを、中学生に伝えていきたいという意欲を感じられた。

資料3の「行事ノート（プロセスシート）」には、「自分で周りを見て気付き、周りの人とコミュニケーションをとり、臨機応変に対応できるようにする」と記述しており、先輩として、1年生と積極的にコミュニケーションをとって、学校説明会をよりよいものにしていこうとする意思を感じられた。

資料4の「行事ノート（振り返りシート）」には、「中学生がリラックスして話を聞けるようにコミュニケーションを多くとることを意識した。発表を通じて、人に物事を伝えることの大切さと、難しさを学ぶことができた。文化祭ではクラスの人たちと、しっかりとコミュニケーションをとり合うようにしていきたい」と記述されており、今回の経験を通して感じたコミュニケーションの大切さを次につなげていこうという意識が見られた。

この生徒の記述から、準備シートで設定した自らの目標に向けて、自ら考え実践し、自らの体験を振り返ることで、次への学びにつなげていこうとする意欲を感じ取ることができた。

【資料2 行事ノート（準備シート）】

3. 全体の目標の達成に向けて、この行事にどのように取り組みたいですか？	
自分が中学の時に、オープンスクールに行くとして、初体験に魅力を感じたという経験から、あつめて、自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。	
4. この行事における、あなたの目標は何ですか？	
1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を感じた自分と同じ経験を豊丘でさせること。そのために自分たちができることを探し、行動すること。	
5. あなたの役割や関われること、それについて心がけることを書こう。	
役割や関われること	心がけること
自分にもう一度豊丘の魅力を感じたい。あつめて、自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。	自分が中学の時に、オープンスクールに行くとして、初体験に魅力を感じたという経験から、あつめて、自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。

【資料3 行事ノート（プロセスシート）】

プロセスシート (Action)

1. あなたは、学校案内（パワーポイント）の作成について、どのようにがんばっていますか？			
豊丘にのびのびと行きたいという思いから、写真と動画、そしてあつめて、自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。			
2. あなたの当日の係はどれですか？（○を付ける）			
受付係	会場誘導係	全体説明係	校内探検ツアー係
		○	
3. あなたは当日の係として、どのように考えて行動したいですか？			
中学生は、豊丘に興味を持ってもらえるように、積極的にコミュニケーションをとり、臨機応変に対応できるようにする。自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。			

【資料4 行事ノート（振り返りシート）】

振り返りシート (Reflection)

1. あなたは当日の係として、どのように考えて行動しましたか？			
中学生が聞き取りやすいように話し、あつめて、自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。			
2. 個人として、全体として主体的に取り組み、協力、連携しながらできましたか？			
個人として	全体として		
メンバーと積極的に話し合ったり、コミュニケーションを取ることができました。	メンバーとコミュニケーションを取ることができました。発表前に打ち合わせを行いました。		
メンバーと話し合ったり、コミュニケーションを取ることができました。	メンバーと話し合ったり、コミュニケーションを取ることができました。		
3. 今回、オープンスクール委員として行事に携わり、学んだこと、感じたことを書こう。			
（パワーポイント）の発表を通じ、人に物事を伝えることの大切さと、難しさを学ぶことができた。また、メンバーとコミュニケーションを取ることができた。発表前に打ち合わせを行いました。自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。			
4. 次の行事（豊丘祭）に生かしていきたいことは何ですか？			
文化祭や合唱コンクール準備練習では、積極的にコミュニケーションを取ることができた。メンバーと話し合ったり、コミュニケーションを取ることができた。発表前に打ち合わせを行いました。自分たちの学校にもオープンスクールで1人でも多くの中学生に豊丘の魅力を知ってもらいたい。そのために、動けるように行きたい。			
5. 自己評価（○を付ける）			
(1) 学校案内（パワーポイント）の作成について、どれぐらいがんばれましたか？			
すごくがんばれた	がんばれた	ほどほどにがんばれた	やれることをやれた
			○
(2) 当日の係（受付係・会場誘導係・全体説明係・校内探検ツアー係）について、どれぐらいがんばれましたか？			
すごくがんばれた	がんばれた	ほどほどにがんばれた	やれることをやれた
			○

(3) 授業による実践

ア 方法

令和7年度は、資料5の「授業目標・振り返りノート」を使用し、授業で学びのAARサイクルを回していくことを考えた。Anticipation (出会う) においては、単元目標から単元の見通しを立てた。Action (学ぶ) においては、日々の振り返りから次の授業への見通しを立てた。Reflection (振り返る) においては、目標達成に向けどのように授業に取り組んだかを振り返り、次の単元にどう生かしていきたいかを考えた。

イ 実践

研究対象としたクラスは1年生から3年生の全クラスで、対象教科は全教科で実施した。資料5の「授業目標・振り返りノート」を基として、各教科でアレンジを加え使用した。単元の最初に教科担任が単元の目標を示し、その目標の達成に向けて生徒自身が目標(課題)を設定し、「授業目標・振り返りノート(準備シート)」に目標(課題)を書いた。毎時間、「授業目標・振り返りノート(プロセスシート)」を書き、日々の振り返りから次の授業への見通しを立てるよう考えた。そして、毎時間教科担任がチェックを行うようにした。単元終了時に、目標達成に向けどのように授業に取り組んだかを振り返り、次の単元にどう生かしていきたいかを考えた。

ウ 成果

資料6～資料8は、本校2年生文数数学Ⅱの授業で生徒の書いた「授業目標・振り返りノート」である。資料6の「授業目標・振り返りノート(準備シート)」は、単元の最初の授業で書かせた。「加法定理のやり方をマスターする。最大・最小の解き方を前回までのものとしっかり区別して解く」と記述されており、前時までの内容を振り返り次の単元の目標を設定していることが分かる。

資料7の「授業目標・振り返りノート(プロセスシート)」は、毎授業の終わりに書き、チェックを行った。7月4日・8日には「…覚えて解く方がよさそう」や「…書いて覚える」と記述があ

【資料5 授業目標・振り返りノート】

愛知県立豊丘高等学校 (授業目標・振り返りノート)

目標をたてて授業を受けるようにしましょう！
そして、振り返りをし、次の授業に生かせるようにしましょう！

行	新	番	名前
教科名		科目名	
単元			

準備シート (Anticipation)

1. 単元目標

①
②
③

2. 単元目標の達成に向けて、あなたの目標(課題)は何ですか？(自分のレベルにあわせて具体的に記入)

プロセスシート (Action)

1. 単元目標の達成に向けて、どのように取り組んでいますか？(簡潔に記入)

月 日 ()	
月 日 ()	
月 日 ()	
月 日 ()	
月 日 ()	
月 日 ()	
月 日 ()	

振り返りシート (Reflection)

1. 単元目標は達成できましたか？

よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
-------	-----	-----------	--------

2. この単元であなたの目標(課題)達成やレベルアップのために、どのように取り組みましたか？

3. 次の単元に生かしていきたいことは何ですか？(次単元:)

【資料6 授業目標・振り返りノート(準備シート)】

単元	第4章 三角関数 第2節 加法定理
----	-------------------

準備シート (Anticipation)

1. 単元目標

① 三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解する。
② 三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。

2. 単元目標の達成に向けて、あなたの目標(課題)は何ですか？(自分のレベルにあわせて具体的に記入)

① 加法定理のやり方をマスターする。最大・最小の解き方を前回までのものとしっかり区別して解く

【資料7 授業目標・振り返りノート(プロセスシート)】

プロセスシート (Action)

1. 単元目標の達成に向けて、どのように取り組んでいますか？(簡潔に記入)

7月4日(木)	今回の部分ではsin, cosの計算からsin, cosと同じような解法をしようと思った。
7月8日(火)	加法定理と考え方は同じなのと気づいた。tanの加法定理も書いて覚える。
7月10日(木)	今回は半角の公式を聞いて解くことが時間がかかってしまった。その公式が近くないと解けなかった。
7月11日(金)	三角関数の合成のやり方を理解できた。ただ、例題の解き方から前回の内容から復習した。
7月15日(火)	今回の部分では合成を使用して、また、例題の解き方を見ながら覚えていく。
月 日 ()	

り、どう考えたらよいかという前向きな姿勢が見られた。7月10日には「…時間がかかってしまった。…練習が必要」と記述があり、自分自身の課題を見つけ、次に何をすべきか考えていることが分かる。7月11日には「…理解できたため、応用問題が解きやすくなった」と記述があり、基礎を理解し応用につなげていくことができたという前向きな姿勢が見られた。7月15日には「…できなかった」と記述があり、まだ学習が不十分と感じているように読み取れる。「どのように解いたらできるようになったのか」「次は更に何をするのか」など、より具体的に記述できるようにするという課題はあるが、日々の授業を振り返っていく中で、次につなげ成長していこうとする意欲が感じられた。

資料8は、単元終了時の授業で書いた「授業目標・振り返りノート(振り返りシート)」である。「日頃からタイムプレッシャーの中の計算に慣れる」「自分なりにまとめて理解を深めた」と記述している。日々の振り返りをさらに強固なものとするための工夫が感じられた。

「授業目標・振り返りノート(プロセスシート)」では「覚える」「練習が必要」と記述していたものが、「授業目標・振り返りノート(振り返りシート)」では「理解を深めた」と変化している。日々の振り返りをしていく中で、学びを更によくしていこうとする意欲的な姿勢が見られた。さらに、次の単元に生かしていきたいことに、「流れで覚えるのではなく、文章からなにを使って解くのか分かるぐらいになるまで解き続ける」と記述している。さまざまな問題に取り組んでいく中で、理解を深めていこうと前向きな考えが感じ取られた。自分で解き方を工夫するなど考え実践し、自分の弱みなどを理解することで、次への学びにつなげていくことについて考えることができた。

【資料8 授業目標・振り返りノート(振り返りシート)】

振り返りシート (REVISION)

1. 単元目標は達成できましたか?			
よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
2. この単元であなたの目標(課題)達成やレベルアップのために、どのように取り組みましたか?			
<ul style="list-style-type: none"> 今日は、タイムを付けて家で練習問題を解いて日頃からのタイムプレッシャーの中の計算に慣れる 前回の内容であったり解き方の公式を自分なりにまとめて理解を深めた。 			
3. 次の単元に生かしていきたいことは何ですか?【次単元:第5章 第1節 指数関数】			
<ul style="list-style-type: none"> 流れで覚えるのではなく文章からなにを使って解くのが分かるぐらいになるまで解き続ける 			

3 実践の成果と課題

【資料9 アンケート結果】

実施状況			①		②		③								
年	在籍数	実施数	できた	できなかった	できた	できなかった	できた	できなかった							
1年	200	174	87%	100	57%	74	43%	116	67%	58	33%	103	59%	71	41%
普通科	63	54	86%	28	52%	26	48%	37	69%	17	31%	32	59%	22	41%
生活文化科	263	228	87%	128	56%	100	44%	153	67%	75	33%	135	59%	93	41%
小計															
2年	193	149	77%	85	57%	64	43%	86	58%	63	42%	65	44%	84	56%
普通科	78	75	96%	34	45%	41	55%	41	55%	34	45%	31	41%	44	59%
生活文化科	271	224	83%	119	53%	105	47%	127	57%	97	43%	96	43%	128	57%
小計															
3年	195	151	77%	89	59%	62	41%	106	70%	45	30%	81	54%	70	46%
普通科	77	50	65%	37	74%	13	26%	37	74%	13	26%	31	62%	19	38%
生活文化科	272	201	74%	126	63%	75	37%	143	71%	58	29%	112	56%	89	44%
小計															
学年不明		18		10		8		10		8		10		8	
全学年	806	671	83%	383	57%	288	43%	433	65%	238	35%	353	53%	318	47%
普通科	218	179	82%	99	55%	80	45%	115	64%	64	36%	94	53%	85	47%
生活文化科	合計														

- ① 毎時間、「授業目標・振り返りノート(プロセスシート)」に振り返りを書くことで、次の授業に生かすことはできましたか?
- ② 各単元において、より具体的に目標に向かって取り組むことができるようになりましたか?
- ③ 「授業目標・振り返りノート(振り返りシート)」で単元を振り返り、次の単元に生かすことはできましたか?

(1) アンケート結果

前ページ資料9は令和7年度1学期の期末考査後に実施したアンケートの内容とその結果である。アンケートの実施状況としては、全体で83%の回答を得られた。

①の「毎時間、「授業目標・振り返りノート（プロセスシート）」に振り返りを書くことで、次の授業に生かすことができましたか？」では、【できた】と回答したのは全体で57%でした。特に3年生で63%と高い数字となった。しかし、2年生生活文化科は45%と低くなった。

②の「各単元において、より具体的に目標に向かって取り組むことができるようになりましたか？」では、【できた】と回答したのは全体で65%と高くなっており、特に3年生では普通科・生活文化科ともに70%を超える数字となった。

③の「「授業目標・振り返りノート（振り返りシート）」で単元を振り返り、次の単元に生かすことができましたか？」では、【できた】と回答したのは全体で53%と低い結果となり、特に2年生では普通科・生活文化科ともに50%を下回る数字となった。

(2) 実践の成果

令和6年度に学校行事の場面で学びのAARサイクルを回した結果、生徒が自身でどのようにがんばったかを振り返り、それをどのように次に生かしていきたいかを考えることができた。この取組を学習面でも生かすことができるよう、令和7年度は「授業目標・振り返りノート」を用いてAARサイクルを回した。生徒の書いた「授業目標・振り返りノート」やアンケート結果から、「授業目標・振り返りノート（準備シート）」では示した単元目標から自分の目標（課題）を設定することで、新しく習うことと同時に前回までの学習内容と比較して新しい単元にどう取り組んでいこうかと考える意欲的な生徒の様子が感じられた。

「授業目標・振り返りノート（プロセスシート）」では、毎回の授業の振り返りを書くことで、日々の授業の中でどう解いたらよいのか、どう取り組んでいったらよいのか試行錯誤を繰り返しながら、前向きに考えて授業を受けている様子が感じられた。

「授業目標・振り返りノート（振り返りシート）」では、単元目標の達成度や取組を振り返ることで、日々の振り返りを強固なものとするために工夫したり、さまざまな問題に取り組む中で解き方を工夫したりするなど、次の学びにつなげていこうとする様子が感じられた。

このAARサイクルを繰り返し行っていくことが、自ら目標（課題）を設定し考え、「自ら学ぶ力」の育成につながっていくことが実証できたと考える。さらに、次の学びに生かす「授業目標・振り返りノート」を活用することで、観点別評価における「主体的に学習に取り組む態度」の評価へとつなげていきたい。

(3) 実践の課題

今回の実践における課題は、生徒に対して目的の共有などが上手く伝わらず、何のための「授業目標・振り返りノート」であるのかを周知し実践することができなかった。そして、「自ら学ぶ力の育成に関する研究」について、令和6年度末と令和7年度当初の職員会議で全教職員に周知したが、目的の共有など上手くいかない部分があり教科ごとに温度差ができてしまった。学校全体で取り組み、理解して実践していく難しさがあつたと考えられる。

4 おわりに

研究を進めていく中で、「教員間の連携」や「教員と生徒との共通理解（目的の共有）」が不十分であったことを強く感じた。研究チームを機能させ、頻繁に会議を行っていくことで、もっと情報共有をしていけばよかったと思った。

毎時間の授業で生徒が書いた「授業目標・振り返りノート」を確認することで、分からなかったポイントを知ることができ、授業改善につなげていくことができた。さらに、同じ科目の教科担当と情報共有することで、生徒のつまずいているポイントの共有ができた。

この研究を行ったことで、学校行事や学習での自ら学ぶことの実践はもちろんのこと、それら以外の行事や部活動といった場面でも活用していきたいと考えている。